

宮城教育大学創立50周年記念展示

歴史のなかの教科書

思い出の教科書との再会

2015年

10月16日(金)～18日(日)

せんだいメディアテーク1階オープンスクエア

10:00～17:00 入場無料

関連
イベント

展示解説と朗読「教科書と児童文学」

児玉 忠 (宮城教育大学国語教育講座・教授)

中地 文 (宮城教育大学国語教育講座・教授)

18日(日) 13:30～15:30

江戸時代・明治から現代までの教科書を展示します！

1965(昭和40)年に設置された宮城教育大学は、東北における教員養成の拠点大学として、優れた教育者を世に送り出すため日々努力を重ね、2015(平成27)年に創立50年を迎えました。これを記念し、36万冊を超える蔵書のなかから、江戸時代の教科書である往来物をはじめ、明治時代から現代に至る多様な教科書の変遷の軌跡を、広く一般に展示公開いたします。

附属図書館が収集・保存に努めてきた教科書は約5万冊にも及び、歴史的な資料・証言として、極めて貴重なコレクションを構成しています。この展示会を通じて、多くの皆さまに、時代や社会・文化を映し出す鏡としての「歴史のなかの教科書」に触れていただければと思います。

【第1部】日本の学校教育140年—学校化社会の成立・展開・ゆらぎ—

年代ごとに大きく6つのセクションに分け、江戸時代の庶民の教育機関「寺子屋」で使用された教材「往来物」から、近代的な学校制度が発足して間もない明治時代初期の教科書、さらに、太平洋戦争下の教科書や、戦後のいわゆる「墨ぬり教科書」などを経て、平成の現代に至るまでの様々な教科書の変遷を「歴史のなか」で捉え返します。

- (1) 庶民教育の展開—寺子屋の普及
- (2) 国民教育の成立・展開・定着(～1930年代)
- (3) 戦時下の教育(～1945年)
- (4) 民主主義社会の人間形成—新学制の出発(1945～1950年代)
- (5) 産業化社会の能力開発—学校化社会の到来(1960～1980年代)
- (6) 学校教育の基盤のゆらぎ(1990年代～)



『小学読本』(明治7年)



『女子算術教科書』
(大正14年)



『民主主義』
(昭和24年)

【第2部】教科書のなかの児童文学—教材の原作にふれてみよう—

児童書は初等教育の教員を志す学生を中心に活用されています。仙台市民図書館と宮城教育大学が所蔵する児童書の中から国語の教科書に採録された物語教材とその原作(それを収録した児童書)を時代の流れにそって展示し、教材化される作品の特徴や傾向を考えます。

【第3部】手に触れる教科書

懐かしい思い出に満ちた教科書と再会する場として、宮城教育大学附属図書館が所蔵する膨大な教科書コレクションの一部を、実際に手に取ってご覧いただけます。

【第4部】宮城教育大学のあゆみ

1965年の創立当初から現在に至るまでの宮城教育大学のあゆみを、当時の資料とともに振り返ります。

展示会場周辺地図

